

平成20年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ヤリイカ

学名 *Loligo bleekeri*

系群名 太平洋系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命: 1歳
成熟開始年齢: 1歳
産卵期・産卵場: 冬～春季(1～6月)、九州～東北の沿岸各地
夏～秋季(8～12月)、九州～東北の太平洋側、北方の冷水域では浅く、南方の暖水域では深い傾向がある、土佐湾では水深100～250mの底層
索餌期・索餌場: 外套背長50mmまでは主に小型の浮遊性甲殻類、成長とともにより大型のオキアミ類やアミ類、170mm前後からは魚類
食性:
捕食者: 不明

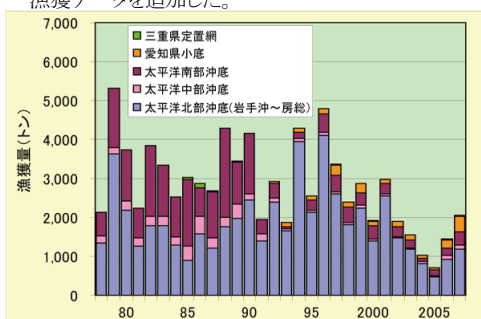


漁業の特徴

太平洋側では北海道南部～本州、四国及び九州沿岸に広く分布し、主に底びき網等で漁獲される。太平洋北部海域(岩手沖～房総)では1そうびきオッタートロール沖海底びき網(沖底)、太平洋中部海域では1そうびき沖底及び小型底びき網(小底)、太平洋南部海域では主に2そうびき沖底により漁獲される。また定置網でも漁獲される。

漁獲の動向

漁獲量は、1970年代後半～1980年代後半に2,000～5,000トン台で大きな年変動を示した。1990年代に入り太平洋中部と南部の合計漁獲量は1,000トン以下に急減したが、北部では1,500～4,000トンで増加傾向となった。北部でも減少傾向が顕著となり2002年には1,500トンを下回り、2005年には462トンとなったが、その後増加し2006年には917トン、2007年には1,196トンまで増加した。2006年には太平洋中部・南部で豊度の高い発生群が十数年ぶりに出現し、漁獲量は前年の254トンから533トンと約2倍に、2007年にはさらに863トンまで増加した。今年から三重県の定置網の漁獲データを追加した。



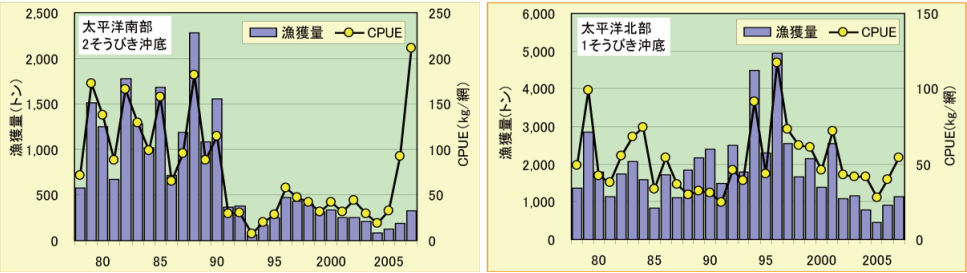
資源評価法

沖海底びき網漁業漁獲成績報告書に基づく太平洋北部(岩手沖～房総)、中部(伊豆沖～熊野灘)、南部(紀州沖～薩南海域)の漁場別漁獲統計及び愛知県の小型底びき網漁業漁獲統計を解析し、資源評価を行った。太平洋北部1そうびきオッタートロール沖底及び太平洋南部2そうびき沖底による漁獲量およびCPUE(ヤリイカの漁獲があった有効ひき網1回当たりの漁獲量)の過去30年間の推移を求めた。

資源状態

太平洋南部2そうびき沖底のCPUEは、1978～1990年は比較的高い水準で年変動を繰り返していたが、1991年以降急激に減少して1993年に最低となった後、1998年以降は一貫して低水準にあったが、2006年、2007年と連続して豊度の高い発生群が出現したことにより漁獲量がやや増大した。漁獲量の増加は太平洋中部でもみられた。太平洋北部1そうびきオッタートロール沖底のCPUEは、1970年代後半～1980年代後半に増減を繰り返しながら減少した後、1990年代に入ると増加に転じて1996年にピークを示した。しかし、2002年以降は減少傾向が顕著となり2005年には過去30年間で最低となった。しかし、2006年以降、太平洋中部・南部と同様に、漁獲量は増大傾向にある。これらのことから、本系群の資源水準は低位、動向は増加傾向とした。





管理方策

資源水準は低位で、動向は増加傾向にあると考えられるが、漁獲を抑制して資源の回復を図るため、すなわち1990年以前の資源水準(太平洋中・南部海域合計で年間1,000トン以上、北部海域で年間2,000トン以上、全海域合計で3,000トン以上の持続的漁獲が可能な資源水準)まで回復させることを管理目標とした。ABCの算定にあたっては過去3年間の漁獲量の平均値の8割をABClimitとし、それに安全率0.8を乗じてABCtargetを算出した。

	2009年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	1,100トン	0.8Cave3-yr	-	-
ABCtarget	900トン	0.8・0.8Cave3-yr	-	-

資源評価のまとめ

- 太平洋南部の漁獲量とCPUEは、1978～1990年まで比較的高い水準であったが、急減して1993年に最低値を示し、1997年以降も減少傾向にあったが、2006年、2007年とやや増加した
- 2006年、2007年の太平洋南部における発生群の豊度は近年平均より大幅に増大し、2そうびき沖底の漁獲努力量は2005年の半分以下であったにもかかわらず、当該海域の漁獲量は増大した
- 太平洋北部の漁獲量とCPUEは、1996年に最高値を示したが、2002年以降減少傾向となった。その後、2005年に最低の水準となったが、2006年以降は太平洋中部・南部同様、増大傾向にある
- 資源水準は低位、動向は増加傾向

管理方策のまとめ

- 漁獲を抑制して資源の回復を図る
- 太平洋南部では、2006年、2007年連続して近年では高い加入量が確認され、その後の漁獲の増大に寄与した
- 土佐湾の調査船調査による2008年の加入量指数は、2006年の3割程度にとどまっている
- 漁獲量の年変動が大きく、資源変動と環境条件の関係の解明が必要

資源評価は毎年更新されます。